

# 趣味探訪

久保誠三



錦鯉

中学校教諭

同志社のすぐ北、久保先生のお宅を訪ねたのは、立春を過ぎたとはいえ、寒さの続く朝であった。  
広い庭に堀られた池には、数多くの錦鯉が冬を知らぬかのように元気に、そのみごとに姿を誇っていた。

——先生は立派な錦鯉を飼育されていますが始められたきっかけはどういうところですか  
久保 家を改造したときに、庭を手直しして池を堀ったのがきっかけで、最初二本ほど、中学校の本官先生にいただいて入れたのが始めなんです。

——お始めになってどれ位になりますか。  
久保 六年ほどになります。

——現在飼育されている錦鯉の数は？

久保 いま入っているのは百四、五十です。  
——一口に錦鯉といっても何種類もあるんでしょうね。

久保 分類の仕方により、また人によって違いますが、保育社の「カラーブックス」によると四十四種類ほどですが、新しい品種が次々と改良されてますので、実際にはもう少し多いかと思えます。代表的なものとしては、紅白、三色、浅黄、黄金系などがあります。

——生産地はおもにどの地方ですか。

久保 歴史的にいて最も有名なのは新潟ですが、そのほかに山陰の鳥根県など、裏日本に多いんですね。生産量の多いのは大和郡山です。

——錦鯉は大変高価なものだと聞きますが、



優雅な姿をみせる錦鯉

どの程度で購入できますか。  
久保 小さいものならば百円〜二百円位、十五〜十八センチ位の大ききで五百円から千円位で、三十センチ程度になると三千〜五千円位です。

品評会などのトロフィーを目標に、競争して飼うという人は何十万、何百万というのを買いますが、まあそれは賞をとるのが目的で、われわれは高い鯉を買いあさるというこ

とは目的にしていまないので……。趣味としてするには三百円や千円の鯉でも、見て楽しい鯉は飼えるわけです。ですから、そういう見て楽しめる鯉を持てば、品評会で賞に入るものでなくても、それでいいんじゃないでしょうか。

——錦鯉を飼育しようとする人のために、注意すべき点などを……。

久保 飼育について大切なことは三つあります。まず清潔。食べ残しなどの処理をやることです。これは底水を抜くことが必要です。つぎに、温度。温度の急変が一番いけません。温度は〇度から三十度位までの範囲なら大丈夫なのですが、ただ、低ければ低いままで保ってやればいいんですが、急な変化が一番弱いんです。それからもう一つは酸素不足に注意すること。そのような点に注意すればめったに失敗するものではありません。

——池以外に水槽でも飼育できるそうですが、久保 底水をとって、いまの注意をすれば、十分できます。特に水槽ですと横から鑑賞できますので、とくに黄金系などきれいでいいですね。

——初心者には病気にからせると手こずるものですが、その対策などについて……。

久保 さきの飼育上の注意点を気をつけて健康管理さえうまくやれば、病気にかかるものではないんですが、細菌の発生しやすい時期には消毒剤を入れたりして予防をするといいたいです。

——先生は「全日本愛鱗会」の理事でもあられますが、それについてひとこと……。

久保 愛鱗会はアマチュアの錦鯉愛好会で、会員数は京都で約二百名、全国では四千名ほどになるグループです。

それから、ちょっとした要領を知らないために失敗するという例がよくありますが、経験のある人に聞けば無駄もなく経済的でもあるわけです。そんなとき、愛鱗会などの愛好会をうまく使えば得だと思えます。

このように錦鯉は簡単に飼える、いわば、生きた芸術品のようなものですから、どんなに楽しまれる方が多くなればと思います。

※本記事の取材にあたっては、おなじく錦鯉の愛好家である増田万次氏（本部施設課長）の協力を得ました。